

問題

家族の機能について、マードックの説を中心に説明せよ。なお、パーソンズの説についても言及すること。

解答のポイント

① 家族の機能の定義

家族が社会全体または家族成員に対してなす貢献，ということを書いておきたい。

② マードックの 4 機能説

4 つの機能の名称およびそれぞれの説明は，適切に示すことが必要である。また，この 4 機能は核家族が担っていることも書いておきたい。また，4 機能説と密接に関連している核家族普遍説について言及してもよい。

③ パーソンズの 2 機能説

2 つの機能の名称は，適切に示すことが必要である。

④ その他の家族機能説

オグバーンはややマイナーなので 7 機能それぞれの名称は書けなくてもよいが，7 から 1 に減少したことと，残ったのは愛情機能だけということは示しておきたい。

上記のうち，優先順位は，②・③・①・④となる。

解答例

「家族機能」とは，家族が社会の維持に対して，あるいは家族成員個々の欲求充足に対してなす貢献のことである。アメリカの文化人類学者 G. マードックによれば，一組の夫婦と未婚の子どもからなる集団である「核家族」は，夫婦間の性的欲求の充足・規制を担う「性機能」，共住共食および性にもとづく分業としての「経済機能」，子どもを産む「生殖機能」，その子どもを世話して一次的社会化をする「教育機能」の 4 つを果たしている。このうち，性機能と生殖機能がなければ社会が消滅するし，経済機能がなければ生命そのものが維持できず，教育機能がなければ文化が終わりを告げる。このように，最小の親族集団であり社会の核となる単位としての核家族は人間の社会生活にとって必要不可欠な 4 機能を果たしているため，時代と地域をこえて，それ自体として単独に，またはより大きな複合的な家族の構成単位として常に普遍的に存在しているという「核家族普遍説」をマードックは提唱した。

これに対して T. パーソンズは，近代社会ではもはや経済機能と生殖機能も家族固有の機能とはいえなくなると主張し，家族の本来の機能として，子どもたちを社会の一人前の成員にしていく「子どもの一次的社会化」と「成人のパーソナリティの安定化」の 2 つを挙げた。

また W. オグバーンは，近代工業が発展する以前の家族には，経済機能・教育機能・保護機能・地位付与機能・宗教機能・娯楽機能・愛情機能の 7 機能があったが，近代化・工業化の進展に伴って愛情機能だけが家族内に残り，他の 6 機能は家族の中で衰退するか，社会の中の専門機関や制度に吸収されつつあると指摘した。同様に E. バージェスも，近代的な「友愛家族」は専門的制度や機関に代替さ

れない愛情の機能を果たすとしている。

このように、パーソンズは「本来の機能が明確になった」と積極的に論じるのに対して、オグバーンらは家族機能の変化を消極的に論じる違いはあるが、いずれも愛情機能・精神安定機能を強調する特徴を持つ。

以上

(829 字)

TAC 生はココで解けた！

専門記述対策（政治系）テキストレジュメ P. 121 に掲載している東京都 I 類の過去問、また P. 194 および P. 196 に掲載している予想問題と出題内容が重なっているため、こちらをしっかりと学習していれば解けたはずである。